

## (株)エルム (財)機械振興協会から新機械開発賞受賞

財団法人 機械振興協会(豊田章一郎会長)は、2月21日に2000年度(第31回)中堅・中小企業新機械開発賞の受賞企業7社を発表しました。この中に、当センターが推薦した(株)エルム(加世田市・宮原隆和社長)の「自動計数付フェロモントラップ(ムシダス)の開発」が選ばれました。

これは、害虫発生をリアルタイムに把握し、適切な時期に駆除を行えるよう年間を通じて観測できる装置で、農薬の使用量や食害環境汚染を低減するものです。また、高い計数精度を有し、頻繁な保守を必要とせず、気象データの収集機能を持っています。

表彰式は3月22日に東京・機械振興会館で行われました。



自動計数付フェロモントラップ(ムシダス)

## 鹿児島商工会議所が産業経済賞を発表

鹿児島商工会議所は平成12年度(第7回)産業経済賞を発表しました。大賞には山佐木材(株)が、特別賞にはヤマト電子(株)と松元機工(株)が選ばれました。

山佐木材(株)は、当センターと2件の共有特許を持ち、新技術や新製品の研究に積極的で地域の

活性化と本県林業などへの貢献が評価されたものです。ヤマト電子(株)は液晶バックライトの分野で高い市場占有率を誇り、また、松元機工(株)は茶園管理作業機械の製造で海外にも輸出され、高い技術力が評価されたものです。

## 好評・・・工業所有権(特許・商標・意匠など)の検索に関する講習会

知的所有権センターと当センターでは平成12年度から県内を巡回して工業所有権(特許・商標・意匠など)の検索に関する講習会を開催しています。これは、特許庁電子図書館(IPDL)の特許や商標などの検索が、インターネットで昨年からできるようになったため、その知識や検索方法を皆さんが理解できるように企画したものです。

これまで、鹿児島市、国分市、加世田市、枕崎市、西之表市、名瀬市、高山町、末吉町の企業・団体・組合等で講習会を開催しました。

参加された方は非常に熱心で、講習会後も質疑や意見が多く出されました。今年度も県内各地を巡回する予定ですので、希望される企業や団体の

方は、当センター企画情報部もしくは知的所有権センターまでご連絡下さい。



工業所有権の検索に関する講習会

## 平成12年度即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業に2件採択

平成12年度即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業（新エネルギー産業技術総合開発機構・NEDO）に当センターから応募していましたが「使用済み発泡スチロールの完全循環型再生技術及び処理装置の開発」が、採択されました。全国92件の応募から11件採択でした。

この研究事業は、世界で初めて当センターで開発した「発泡スチロール溶剤減容物への常温低圧発泡剤含浸処理技術」を用い、再生発泡性ビーズ製造技術と再生処理装置の開発を行うものです。特許は国内と国際出願しました。記者会見は3月26日（月）センターで行いました。

また、産業技術総合研究所九州センター（旧：

九州工業技術研究所）をプロジェクトリーダーとする「新方式高感度薄膜圧力センサの開発」のテーマも同事業に採択され、その中でも当センターは参画することになりました。



記者会見風景

## 尾前 宏 主任研究員と安藤浩毅 主任研究員が工学博士の学位を取得



電子部の尾前宏主任研究員が、3月23日に鹿児島大学から工学博士の学位を取得しました。

学位論文題目は「不要電磁波による電子機器の誤動作解析に関する研究」で、電子機器において、

外来の不要電磁波の影響を受けやすい箇所を効率的に検出する技術をまとめたものです。

化学・環境部の安藤浩毅主任研究員が3月23日に鹿児島大学から工学博士の学位を取得しました。学位論文題目は「加圧熱水を用いた植物系バイオマスの機能性素材への変換技術に関する研究」で、加圧熱水を用いて、植物を構成する成分の分離や食物繊維やオリゴ糖などの機能性素材に変換する技術をまとめたものです。



植物を構成する成分の分離や食物繊維やオリゴ糖などの機能性素材に変換する技術をまとめたものです。

## 笠作主任研究員技術士の資格取得



文部科学省の技術士第二次試験（8月23日筆記試験，12月1日口頭試験）が行われ、化学・環境部の笠作欣一主任研究員が環境部門で合格し、技術士の資格を取得しました。

この試験は学理や知識だけではなく、経験によって裏打ちされた技術と応用能力も必要とされています。笠作主任研究員の大気環境研究における経験と成果が、合格に結びついたものといえます。

## 特別研究員ヌルル氏の紹介

私は科学技術事業団の科学技術特別研究員ヌルル・タウヒック・ロッチャマン（インドネシア科学省）です。

3年間の予定で「LCAを考慮した鉛フリー耐脱亜鉛黄銅合金の開発」の研究を行います。これは塩化物イオンによる脱亜鉛腐食が問題となっていますが、鉛を含まずにかつ脱亜鉛腐食の小さな新しい黄銅合金を開発することです。よろしくお願いたします。

